第２章　佐伯市の歴史文化資源の概要と特徴

第１節　指定等文化財

文化財保護法では、文化財を「有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群」の６つのものと定義し、その中から特に学術上重要なものを文化財保護法や県・市の条例により指定、登録、選択、選定し、保護の対象としている（以下、「指定等文化財」という）。

本市の指定等文化財は、令和５年（2023）６月現在、268 件である。類型別の内訳を見ると、有形文化財が合計 149 件で最も多く、過半数を占める。次いで、天然記念物が 48 件、史跡が 28 件と続く。無形の民俗文化財は 22 件、有形の民俗文化財は 13 件で、合わせて民俗文化財は 35 件あり、天然記念物に次ぐ。現時点では、無形文化財、文化的景観、伝統的建造物群として指定された文化財はない。

指定等文化財の総数に占める天然記念物及び民俗文化財の多さは、広大な市域に多様な環境を内包している、本市の特徴の一つといえる。

表 2-1　指定等文化財の件数一覧

類型			国			県		市	合計	
大分類	小分類		指定等	選択	登録	指定	選択	指定		
有形文化財	建造物		0	－	4	5	－	79		88
	美術工芸品	絵画	0	－	0	0	－	2	2	61
		彫刻	0	－	0	1	－	21	22	
		工芸品	0	－	0	1	－	2	3	
		古文書	0	－	0	0	－	22	22	
		書跡	0	－	0	0	－	2	2	
		典籍	0	－	0	0	－	0	0	
		考古資料	0	－	0	1	－	3	4	
		歴史資料	0	－	0	0	－	6	6	
無形文化財			0	0	0	0	－	0		0
民俗文化財	有形の民俗文化財		1	－	0	1	－	11	13	35
	無形の民俗文化財		0	0	0	7	1	14	22	
記念物	遺跡（史跡）		1	－	0	3	－	24	28	84
	名勝地（名勝）		0	－	0	1	－	7	8	
	動物・植物・地質鉱物（天然記念物）		4	－	0	18	－	26	48	
文化的景観			0	－	－	－	－	－		0
伝統的建造物群			0	－	－	－	－	－		0
合　計			6	0	4	38	1	219		268

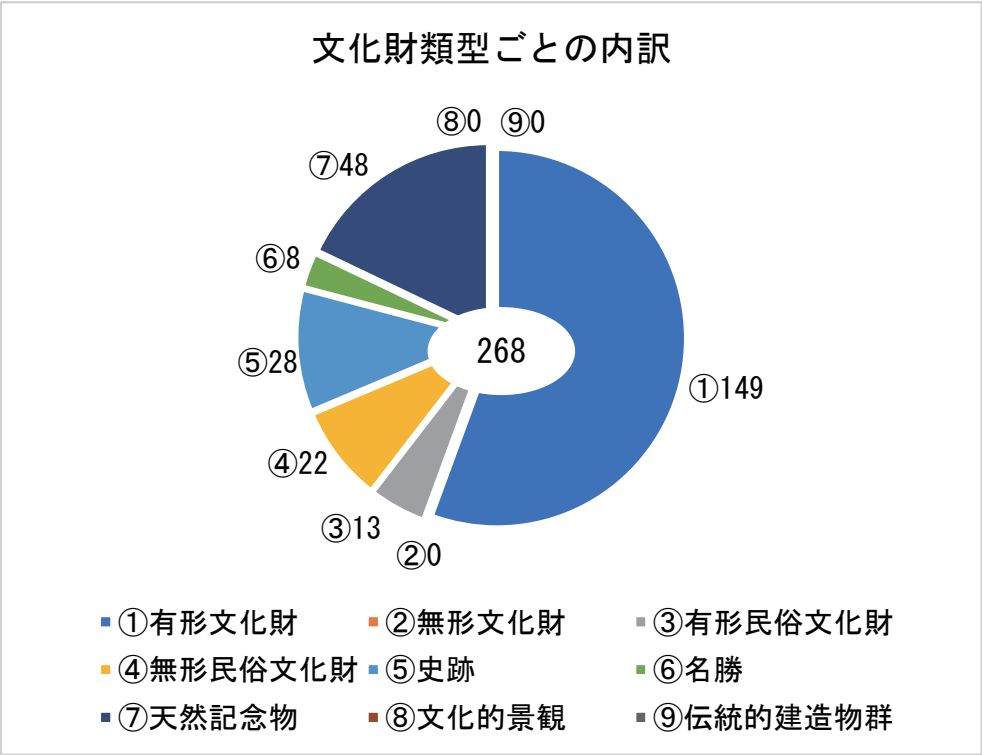

図 2-1　指定等文化財の類型ごとの内訳

第２節　未指定の歴史文化資源

未指定の歴史文化資源にも、本市の歴史文化を伝える固有の歴史文化資源として、見るべきものが多い。指定等文化財とともに保存・活用を図ることが必要である。

令和５年現在、本市において把握している未指定の歴史文化資源は計 5,161 件で、類型ごとの内訳は下記のとおりである。

有形文化財には、佐伯藩主であった毛利家に伝来する「毛利家資料」や、８代藩主の毛利高標（たかすえ）が収集した「佐伯文庫」などの貴重な歴史文化資源が含まれている。全体の４割弱を占める有形の民俗文化財は、各地区の公民館等に収蔵されているものである。民具や農具など生活・生業に関する資料が多い。建造物や無形の民俗文化財、動物・植物・地質鉱物は、過去の調査成果によりその所在が判明している近世寺社、石造物、民俗芸能・行事、植物・地質鉱物などである。

このほか、本市域に分布する埋蔵文化財包蔵地については、大分県教育委員会が平成 30 年（2018）に刊行した『大分県遺跡地図』により、100 件が周知されている。文字としては残らない、佐伯の過去を伝える歴史文化資源として重要である。周知の埋蔵文化財包蔵地のなかには、弥生時代中期の東九州に広く分布する下城式土器（しもじょうしき）の標識遺跡である下城遺跡、中世の佐伯氏と家臣団が居城と居住地を形成した栂牟礼（とがむれ）遺跡、現在の本市中心市街地の基礎となった、江戸時代の佐伯城下町などがある。なお、未指定の歴史文化資源の件数としては、未指定の史跡に含めて集計している。

指定文化財と同じく、現時点で無形文化財・文化的景観・伝統的建造物群として把

握している歴史文化資源はない。しかし、歴史文化資源についてのアンケート（歴史文化資源の把握調査：p56）の結果を見ると、市民がイメージする歴史文化資源には、「ごまだし」や「くじゃく」といった郷土食や、観光資源・景観資源として活用されている「歴史と文学のみち」が挙げられている。そのほか地形や自然環境に関わるものから、本市の特産品、歴史的な由緒のある地名や地形まで、文化財保護法における類型に含まれない、多様な歴史文化資源が含まれている。このような歴史文化資源の把握は、今後の大きな課題である。

現在把握している指定等文化財及び未指定の歴史文化資源の一覧は、資料編に掲載している。

表 2-2　未指定の歴史文化資源の件数一覧

<table>
<tr><th colspan="3">分類</th><th rowspan="2">件数</th><th rowspan="2"></th></tr>
<tr><th>大分類</th><th colspan="2">小分類</th></tr>
<tr><td rowspan="9">有形文化財</td><td colspan="2">建造物</td><td>157</td><td>157</td></tr>
<tr><td rowspan="8">美術工芸品</td><td>絵画</td><td>171</td><td rowspan="8">2,285</td></tr>
<tr><td>彫刻</td><td>1</td></tr>
<tr><td>工芸品</td><td>19</td></tr>
<tr><td>古文書</td><td>251</td></tr>
<tr><td>書跡</td><td>43</td></tr>
<tr><td>典籍</td><td>94</td></tr>
<tr><td>考古資料</td><td>256</td></tr>
<tr><td>歴史資料</td><td>1,450</td></tr>
<tr><td colspan="3">無形文化財</td><td colspan="2">0</td></tr>
<tr><td rowspan="2">民俗文化財</td><td colspan="2">有形の民俗文化財</td><td>2,359</td><td rowspan="2">2,394</td></tr>
<tr><td colspan="2">無形の民俗文化財</td><td>35</td></tr>
<tr><td rowspan="3">記念物</td><td colspan="2">遺跡（史跡）</td><td>240</td><td rowspan="3">325</td></tr>
<tr><td colspan="2">名勝地（名勝）</td><td>0</td></tr>
<tr><td colspan="2">動物・植物・地質鉱物（天然記念物）</td><td>85</td></tr>
<tr><td colspan="3">文化的景観</td><td colspan="2">0</td></tr>
<tr><td colspan="3">伝統的建造物群</td><td colspan="2">0</td></tr>
<tr><td colspan="3">合　計</td><td colspan="2">5,161</td></tr>
</table>

第３節　歴史文化資源の特徴

ここでは、指定等文化財と未指定の歴史文化資源について、類型ごとに主な歴史文化資源とその特徴を述べる。

３－１　有形文化財

有形文化財は、県指定有形文化財８件、市指定有形文化財 137 件、国登録有形文化財４件、合計 149 件である。

【建造物】

建造物は、県指定５件、市指定 79 件、国登録４件、合計 88 件である。

県指定「佐伯城三ノ丸櫓門」（佐伯地区城山）は、佐伯城跡で唯一現存する建造物で、寛永 14 年（1637）に佐伯城三の丸の正門として建てられ、享保 11 年(1726)、天保３年（1832）の建て替えを経たものである。門の化粧板には、欅の一枚板が張られ、前面の斜面は駕籠のまま昇降が可能なように、段を設けない敷石になっているともいわれる。幾度か修理が行われた痕跡があり、昭和 50 年（1975）にも大規模な修理が行われた。大分県内では他にない櫓門の現存例として希少である。

図 2-2　佐伯城三ノ丸櫓門

また、大分県の大地は阿蘇火砕流堆積物に広く覆われ、石造物の造形に適した凝灰岩が身近にあるため、県内には石造文化財が多数存在する。市内でも一部に凝灰岩が分布し、多くの石造物が造られている。

県指定「十三重塔」（佐伯地区上岡）は、総高 8.5 m、基礎の幅 1.2 mで、石材は凝灰岩を用いる。基礎の四面に２個ずつ優雅な装飾が刻まれ、初層軸部の四面には三尊仏立像が細かに浮彫りされている。各層の軸部に扉と阿弥陀坐像が浮彫りされ、部分的に黄・朱などの彩色の名残があり、当初の華麗さがしのばれる。造立は鎌倉時代と推定されるが銘文はない。この地区を拠点とした佐伯氏に関わる供養塔と考えられている。

県指定「床木河野家石幢」（弥生地区床木）は、戦国時代に河野氏一族が河野主殿允らのために建立した供養塔で、元亀４年（1573）の銘文を持つ。河野氏は中世以来の武士で、江戸時代には庄屋格として床木村の中心的存在であった。石幢は重制で、中台はやや小さく、珍しい宝珠とともに特異な塔形を造っている。中台の上の軸部には仏龕を造り、うち三面に一面二尊の六地蔵を、他の一面には十王像を２体、平彫りで表現している。石幢の形態の優美さと、由緒を物語る銘文を持つ見事な逆修六地蔵

塔である。

県指定「大師庵宝塔」（宇目地区塩見園）は、黒岩峠にある大師庵の前庭西側に、２基並ぶ南北朝時代の宝塔である。基壇・基礎・塔身・笠・相輪からなり、基壇上部の四面に八葉の腹弁を陽刻している。塔身には「貞和五年（1349）己丑十月二八日」と北朝年号の日付が陰刻されている。笠石の軒の厚さ、反りや軒両端の線は時代をよく反映し、露盤、伏鉢、請花彫刻は特に優れている。この塔の特徴は、基壇上部四面に彫られた返り花であるが、全体的に彫りは深く、各蓮弁の形に丸みをもたせ、各弁を両側から押し上げるようによくまとめている。

図 2-3　床木河野家石幢

市指定「旧坂本家住宅」（佐伯地区城下東町）は、旧佐伯藩士の坂本家の居宅で、女島にあった藩主毛利家の別荘 御浜御殿の一部を移築したものと伝わる。明治時代にはのちに文豪として知られる国木田独歩が下宿し、その作品に影響を与えた。現在は城下町佐伯国木田独歩館として公開されている。

国登録「旧佐伯海軍航空隊掩体壕」（佐伯地区東浜）は、待機中の戦闘機を収容する格納庫で、昭和 18 年（1943）に建てられた。面積 225 ㎡の鉄筋コンクリート建造物で、長方形の開口部で縁取ったヴォールト構造と呼ばれる部分の後方に、尾翼を収納するためのほぼ半円筒状の構造体が付く特徴的な形態を持つ。耐弾式コンクリート建造物の一例で、旧海軍航空機の防空用格納施設として広く知られている。現在２基残っており、うち１基が登録物件である。

図 2-4　渡り鳥館（旧水ノ子島灯台吏員退息所物置所）

国登録「豊後水道海事博物館（旧水ノ子島灯台吏員退息所）」「渡り鳥館（旧水ノ子島灯台吏員退息所物置所）」「豊後水道海事博物館塀（旧水ノ子島灯台吏員退息所塀）」（鶴見地区梶寄浦）は、豊後水道に浮かぶ水ノ子島灯台に勤務する職員の退息所として、明治 37 年（1904）に建てられ、当時としては優雅な洋風建築であったと思われる。現在は保存展示施設として、当時の生活で使用された道具などを展示・公開する場所となっている。

指定等以外の建造物では、大分県の調査により把握された各地の石塔を主として、157 件を確認している。

【美術工芸品】

（絵画）

絵画は市指定２件である。

市指定「羽出浦天満社絵馬と天井絵」（鶴見地区羽出浦）は、絵馬に合戦をする騎馬武者の姿など様々な動物や鳥、植物が描かれている。作成年代は、古いもので文久２年（1862）に奉納され、以降、大正７年（1918）までの年号が見られる。概ね大坂で作成されたものである。

図 2-5　羽出浦天満社絵馬と天井絵

市指定「西運寺仏涅槃図」（弥生地区井崎）は、釈迦の入滅を描いたもので、釈迦を追慕する涅槃会の際に懸けられた。西運寺の創建は慶長８年（1603）と伝わるが、作図から室町時代後半の土佐派によるものと推測されている。慶応２年（1866）に表装が行われている。

指定等以外の絵画では、個人宅などに伝来したと思われる書画など 171 件が公民館等に収蔵されている。

（彫刻）

彫刻は県指定１件、市指定 21 件、合計 22 件である。

県指定「木造阿弥陀如来坐像及び観音・勢至菩薩立像」（佐伯地区上岡）は、阿弥陀如来を中央にして、向かって左側に観音菩薩、右側に勢至菩薩を従えた阿弥陀三尊像である。中尊の阿弥陀如来は、小粒の螺髪を切り揃えた肉髻・地髪部に、丸くふくよかな面相は三日月状の孤を描く眉、切れ長の伏せ目、引き締まった口もとなど、総じて小づくりの目鼻立ちによる穏やかな表情をしている。頭に宝冠を被り、身に条帛と裳を着して、手に持物を執る。腰を僅かに振って蓮華座上に立つ両脇侍菩薩は、頭・体のバランスも良く、しなやかなプロポーションを見せ、その彫りロは中尊と同工であり、当初から三尊一具のものとして造られたと考えられる。この阿弥陀三尊像の伝来は、記録がなく不明である。伝承によれば、正暦元年（990）に恵心僧都（源信）が、一刀三礼（ひと彫りごとに三度礼拝すること）のもとに造立したと伝えられるが、おそらくは平安時代後期の佐伯氏による天台浄土信仰の所産であろう。

図 2-6　木造阿弥陀如来坐像及び観音・勢至菩薩立像

市指定「木造不動明王坐像」（米水津地区宮野浦）は、胎内に「天保十一年（1840）庚子年」と墨書される。この像を置く岩座と火焔や光背も当初のものと考えられる。楠から彫り出され、両肩から腕、そして膝前は別の部材で作られている。

市指定「洞明寺文殊菩薩像」（弥生地区江良）は、寛政７年（1795）のものと伝わる。京都の仏師の作で、高さは 46.2 ㎝、桧材の寄木造である。厨子銘文によると、佐伯藩筆頭家老・戸倉重県が寄進したもので、大乗妙典（法華経）を一文字ずつ一葉に書写し、その灰を仏胎内に納めているという。

指定等以外の彫刻では、佐伯市蒲江海の資料館にエビスゾウがある。

（工芸品）

工芸品は、県指定１件、市指定２件、合計３件である。

県指定「常楽寺鰐口」（佐伯地区大手町）は、室町時代中期に佐伯氏が堅田にある常楽寺に寄進したものと考えられる。常楽寺は佐伯氏ゆかりの寺院で、境内には中世のものと考えられる五輪塔や無縫塔など多くの石造物が散在している。鰐口は銅鋳造製、面径 36 ㎝、厚さ 10 ㎝、重量 14.5 ㎏で、かつて本堂の軒前につるされていた。表面に肉太の陰刻銘があり、「豊後州佐伯庄堅田村常楽寺之公用也　于時文安四年（1447）丁卯閏二月廿八日　願主惟直」と彫られている。

図 2-7　常楽寺鰐口

市指定には、「小林九左衛門の佩刀」（佐伯地区大手町）などがある。小林九左衛門は江戸時代中期、佐伯藩の足軽小頭から上級藩士にまで出世した人物で、弥生地区に小田井路や鬼ヶ瀬井路を建設し、水田開発への多大な貢献が知られる。この刀は九左衛門の所持品と伝わり、刀身は 91.7 ㎝、銘は「豊後住大和守藤原忠行」「不動　小林氏吉晴帯之」と刻まれている。

指定等以外の工芸品では、祭典で使用されていた刀や、個人宅に伝わる漆工品など 19 件が公民館等に収蔵されている。

（古文書）

古文書は市指定 22 件である。

市指定「盛嶽文書」（直川地区横川）は、中世に佐伯を支配した佐伯氏の配下である、盛嶽家に伝わった文書群である。戦国時代に佐伯惟教が四国へ逃れた際、佐伯に残った盛嶽氏と連絡を取り合う内容など、他の古文書には見られない情勢を知ることのできる貴重な資料である。

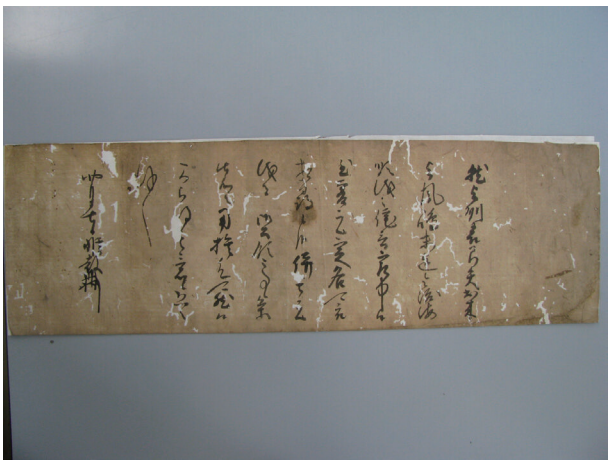

図 2-8　盛嶽文書

市指定「毛利高政書状」（上浦地区浅海井浦）は、元和９年（1623）に浅海井浦の肝煎弐兵衛に宛てた文書で、浅海井瀧権現の修理費用に、年貢米のうちから毎年５斗ずつ永代納めるというものである。

市指定「成松文書」（米水津地区浦代浦）は、浦代浦庄屋の成松家に伝わったもので、永禄 11 年（1568）から天保 14 年（1843）までの同浦を中心とした出来事が記されている。記事には、宝永４年（1707）に起きた地震と津波の記録が見られる。

指定等以外の古文書では、佐伯藩９代藩主の毛利高誠が家老の関谷長熙に命じて編さんした藩政史料「温故知新録」をはじめ、各地域を描いた絵図や、個人の家に伝来した書状、帳簿など 251 件が佐伯市歴史資料館や公民館等に収蔵されている。

（書跡）

書跡は市指定２件である。

市指定「矢野龍渓自筆書幅」（佐伯地区大手町）は、明治から大正にかけて活躍した矢野龍渓の漢詩書である。龍渓は佐伯城下町で生まれ、東京で政治家・作家・ジャーナリストとして活躍するとともに、故郷佐伯を愛し続けた。この書は明治 45 年（1912）に帰郷した際に、佐伯の自然風土を詠んだ詩を書いたもので、骨太で丸みを帯びた筆跡からは、佐伯出身の文人の面影がうかがえる。

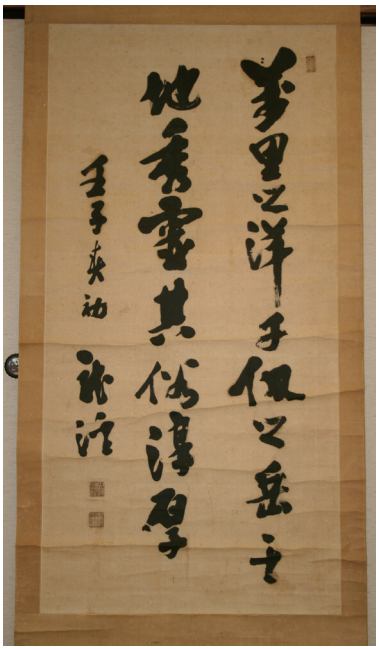

図 2-9　矢野龍渓自筆書幅

市指定「高標書「山号額」」（米水津地区浦代浦）は、浦代浦大願寺の扁額で、佐伯藩８代藩主である毛利高標の書を木彫りしている。原書を収める箱の記載によると、高標晩年の寛政 11 年（1799）の作品といわれ、膨大な書籍を収集した学者大名 高標の書風を伝えている。

指定等以外の書跡では、個人宅や寺社に伝来したと思われる書や掛け軸が 43 件確認されている。

（典籍）

現時点で典籍の指定等文化財はないが、指定等以外の典籍では、佐伯藩８代藩主の毛利高標が収集した「佐伯文庫」のうち、幕府に献上されず佐伯に残された一群が、佐伯市歴史資料館に保管されている。このほか江戸時代の国内で出版された読本や、儒学を学ぶための書物など、公民館等に所蔵されているものを含めて計 94 件を確認している。

（考古資料）

考古資料は、県指定１件、市指定３件、合計４件である。

県指定「蔵骨器」（佐伯地区大手町）は、昭和 26 年（1951）に台風により佐伯地区上岡の十三重塔が倒壊し、その復元の際に塔の直下及び周辺から発見された。見つかったのは 10 個余りの陶製蔵骨器で、うち２個が１件として指定されている。１つは口径 8.6cm、高さ 20cm、底径７cm ほどの胴膨らみの円柱状で、頸が外に反って、肩部に二条の沈線が入り、四耳が横長に取り付けられている。また、蓋に径 8.4 ㎝の薄い鏡が使われており、これは中国の越州（中国南部の浙江省方面）で生産されたと推測されている。もう１つは胴が長く、底部が引き締まり、肩の張りが目立つ。頸部は極端に小さく、元は長頸であったと思われる。古瀬戸で口径 4.3cm、高さ 28.8cm、底径 8.6cm、風格ある鎌倉時代の作といわれ、佐伯氏との深い関わりがうかがえる。

図 2-10　蔵骨器

市指定「櫛描文壺形土器」（佐伯地区若宮町）は、白潟遺跡から出土した、弥生時代後期の土器である。高さ 38 ㎝、口径 14 ㎝の卵形の胴の上部に付いた頸部は外反し、口縁部近くで内側に屈曲する形状である。また、口縁部外反の壺に粘土の「タガ」にのせて、直立またはやや内反させて固着するもので、その外縁にも櫛歯状の工具で波形の文様を巡らしている。この特徴により、国東市の安国寺遺跡で出土した土器を指標とする、「安国寺式」と呼ばれる土器である。安国寺式土器は、２～３世紀頃に瀬戸内から九州東部で盛行した土器で、弥生時代末期のものである。

市指定「上小倉横穴古墳出土品」（弥生地区上小倉）は、上小倉横穴墓群から出土した土師器や須恵器、勾玉、管玉、水晶切子玉などで、７世紀頃のものと推定される。横穴墓は、複数の玄室（墓室）を有する型式で、肥後あるいは日向地方のものと類似することから、関連がうかがわれる。

指定等以外の考古資料では、過去の開発により出土した土器片や石器 256 件が公民館等に収蔵されている。

（歴史資料）

歴史資料は市指定６件である。

文化 13 年（1816）から文政元年（1818）にかけて、弥生地区細田・平井で大規模な灌漑工事が行われた。佐伯藩の命令のもと、切畑村大庄屋の出納藤左衛門が実施し、完成した水路は常磐渠（常盤井堤）と呼ばれた。市指定「常磐渠記」（弥生地区門田）は、工事の始終を佐伯藩士の田原親興が漢文で記したもので、これを歌人の甲斐鶴寸が挿絵を入れて和文で書いたものが市指定「ときは井堤の記」（同前）である。後半には家老の関谷長熙と田原親興らの文人墨客が常盤井堤で詠んだ漢詩や歌を収める。

市指定「浅海井浦地目付起請文前書」（上浦地区浅海井浦）は、上浦地区の津井浦と夏井浦との間で発生した、境界争いの仲裁に関する文書である。享保５年（1720）に郡代以下、藩の役人立会いのもと文書・絵図を２部作成し、津井・夏井両浦で１部ずつ保管することになった。内容は、津井浦と夏井浦の申立てに対する裁許を記したもので、以後争いが起こらないように、双方が同じ文書・絵図を持って伝えている。

市指定「戊申溜池築造関係資料」（弥生地区細田）は、明治 44 年（1911）に完成した弥生地区切畑の溜池工事に関する文書である。この溜池は住民が築造した灌漑施設で、上切畑の水利を大きく改善した。関係資料は、紆余曲折の中、巨額な費用を要しながら、地区の努力によって溜池が築かれた経緯を伝えている。

市指定「赤木村大庄屋の御用日記」（直川地区赤木）は、代々、赤木村の大庄屋を務めた安藤家の記録である。元治元年（1864）、明治３年（1870）、同４年（1871）に調えられた３冊が残されている。注目される記事として、明治２年（1869）に未遂に終わった、百姓一揆についての記録がある。

指定等以外の歴史資料では、佐伯藩主家に伝来した「毛利家資料」や、江戸時代から明治時代までの公的記録である「佐伯藩政史料」など、佐伯を語る上で欠かせない貴重な歴史文化資源がある。このほか近代以降の行政文書や商家の金銭出納に関するもの、戦前までの教科書などが多い。1,450 件を確認している。

3－2　民俗文化財

民俗文化財は、国指定重要有形民俗文化財１件、県指定有形民俗文化財１件、県指定無形民俗文化財７件、県選択無形民俗文化財１件、市指定有形民俗文化財 11 件、市指定無形民俗文化財 14 件、合計 35 件である。

【有形の民俗文化財】

有形の民俗文化財は、国指定１件、県指定１件、市指定 11 件、合計 13 件である。

国指定「蒲江の漁撈用具」（蒲江地区竹野浦河内）は、豊後水道から日向灘に面する同地区の漁業資料を網羅するコレクションである。昭和 51 年（1976）から蒲江町と蒲江町漁具保存会が調査収集し、分類・整理された。釣漁・網漁・潜水漁・採藻の漁具をはじめ、干鰯・イリコ製造の諸道具を中心に、船霊様や金比羅社・石鎚山の木札など信仰関係の資料も多い。系統的かつ豊富に収集した唯一の漁撈用具として、大分県南部の漁業と生活を知る上で貴重である。現在は、佐伯市蒲江海の資料館と佐伯市歴史資料館で収蔵・展示している。

図 2-11　蒲江の漁撈用具

県指定「切支丹柄鏡」（宇目地区南田原）は、民家に伝わったもので、材質は青銅、柄は 8.5cm、鏡体は直径 11cm ある。「天下一上村大和守」という作者名があり、江戸時代中期以降の作と推定され、特異な紋様が注目される。中心部に〇に十字を鋳出し、これを挟んで上下に不可解な紋様があり、縁に沿って図案化された植物を配している。この紋様から、一説には隠れキリシタンが信仰の偽装物として使用していたとも伝わる。

市指定「鯨の墓」（上浦地区浅海井浦）は、類例が国内で 49 基確認されており、鯨漁を示す資料となっている。本市域の沿岸に鯨が現れ、人々の食生活に影響を及ぼしたことがうかがえる。

指定等以外の有形の民俗文化財の大半は、各地区で使用されてきた生活用具や農機具である。佐伯市蒲江海の資料館や各地区の公民館等に 2,359 件が収蔵されている。

【無形の民俗文化財】

無形の民俗文化財は県指定７件、県選択１件、市指定 14 件、合計 22 件である。

県指定「千束楽」（宇目地区千束）は、毎年９月第３土・日曜日に行われる、鳶野尾神社の祭礼で奉納される。安政５年（1858）に森竹吉郎左衛門が大願成就の礼として始めた、宇目地区大原の鳶野尾神社の楽を習ったものといわれる。ただし由来には、大永７年（1527）の栂牟礼合戦に敗れ自害した佐伯惟治の重臣が、惟治の遺品を持って女装し、鉦太鼓を打ち鳴らしながら敵陣を脱した様子を楽化した、という説

もある。こちらは後世になって追加されたものと考えられるが、市民にはよく知られている。

県指定「神踊（かみおどり）・杖踊（つえおどり）」（佐伯地区青山）は、青山黒沢に鎮座する富尾（とみお）神社の春の例大祭（毎年４月 25 日を中心とした日曜日）に奉納される。同神社は、栂牟礼合戦で非業の死を遂げた佐伯惟治を祭る富尾神社の本宮で、弘治３年（1557）から夏と冬の祭りを定め、浜出・踊・杖・狂言を始めたという。一時、衰微したが、江戸時代中期に再開され、以来今日まで継承されている。県指定「風流（ふりゅう）・杖踊」（弥生地区大坂本・尺間）とともに、県南部から豊肥地区及び県東部で多様に継承されてきた棒術や風流の一つである。

図 2-12　神踊・杖踊

県指定「蒲江神楽」（蒲江地区丸市尾浦（まるいちび））は、同地区に鎮座する冨尾神社で毎年４月と 11 月に行われる大祭で奉納されており、県下では特異な日向系岩戸神楽である。現在の社家である塩月氏の先祖は、戦国時代に日向国三川内（みかわち）村から蒲江地区丸市尾浦に移住してきたと伝わり、享保年間に三川内から神楽を伝授されたという。地堅に始まり手取に終わる十八番からなり、この他に佐伯神楽からの伝承とされる綱切・湯立の二番がある。装束は毛頭（けがしら）の使用が目立ち、衣装は陣羽織を多く使用する。楽器は大太鼓・笛・手拍子のみであるが、綱切・湯立の二番では締太鼓も使われる。

指定等以外の無形の民俗文化財では、市町村史誌によって神楽や風流、獅子舞など 35 件が確認されている。

３－３　記念物

国指定史跡１件、国指定特別天然記念物１件、国指定天然記念物３件、県指定史跡３件、県指定名勝１件、県指定天然記念物 18 件、市指定史跡 24 件、市指定名勝７件、市指定天然記念物 26 件、合計 84 件である。

【遺跡（史跡）】

史跡は国指定１件、県指定３件、市指定 24 件、合計 28 件である。

国指定「佐伯城跡」（佐伯地区城山）は、慶長６年（1601）に佐伯藩主となった毛利高政が、翌年から４年かけて築城したと伝わる。山頂部を本丸とし、その周囲を本丸外曲輪（そとぐるわ）が囲み、南に二の丸、西出丸、北に北出丸を配置し、麓には藩主の居所となる三の丸が置かれた。この構造は江戸時代を通じて維持され、城内には城だけでなく山体の維持に関わる遺構も良く残る。近年の調査により発見された、本丸外曲輪のひな壇状石垣は、治山・治水技術を用いた全国的にも珍しい遺構として注目されている。

県指定「白潟遺跡」（佐伯地区若宮町）は、若宮八幡宮に隣接する丘陵に位置する。弥生時代の２つの貝塚と竪穴住居跡が検出され、貝類のほか獣骨・魚骨・石包丁、弥生時代前・中期に東九州で使われた下城式土器が見つかっている。現地は弥生時代の住環境に最適といえ、当時の海岸線を考え、海進状況を想定するのに格好な遺跡である。また、奈良・平安時代の掘立柱建物跡・土師器・骨角器も出土し、長らく人々の生活の場であったことがうかがえる。

県指定「磨崖石塔」（弥生地区上小倉）は、崖面に連続して刻まれた中世の石塔群である。範囲は東に面して南北 25 m に及び、宝塔と五輪塔が立ち並ぶ。宝塔は丸彫りに近い深彫りで、高さは平均２mである。五輪塔は大小あり、１mを越すものもある。４基に銘文があり、嘉暦元年（1326）、同４年（1329）、康永４年（1345）の年号が見える。文面から、百か日供養、あるいは逆修のために造立されたと考えられる。

図 2-13　磨崖石塔

県指定「重岡キリシタン墓」（宇目地区重岡）は、元和５年（1619）５月 20 日の没年月日とともに「るいさ」という洗礼名が刻まれた墓碑である。中世のキリシタン大名として知られる大友宗麟の影響で、県内に多く残されているキリシタン関係史跡の一つである。

指定等以外の史跡では、大分県の調査により把握された中世の城郭や館跡、大分県や本市の調査により把握された、西南戦争や太平洋戦争関連の遺跡、このほか埋蔵文化財包蔵地が計 240 件確認されている。

【名勝地（名勝）】

名勝は県指定１件、市指定７件、合計８件である。

県指定「藤河内渓谷」（宇目地区木浦内）は、祖母・傾山系にある。夏木山に源を発し、渓谷の起点となる観音滝から藤河内集落までの分流を併せて、約８km の間をいう。白く巨大な花崗岩を流れる清流の至る所に、臼状・渦巻状・瓢箪状・流線状など千差万別、無数の甌穴群があり、素晴らしい景観を呈している。特に、観音滝は高さ 77 m もある大飛瀑で、飛瀑の美しさもさることながら、花崗岩の壁面が赤く夕日に映え実に美しい。冬は飛瀑や壁面の全てが凍り、朝日に輝く氷壁の景観は壮観である。

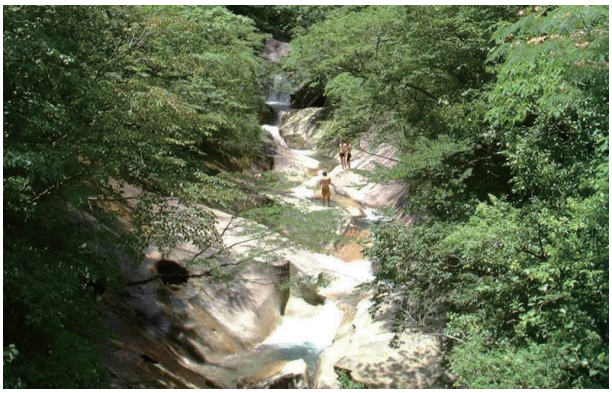
図 2-14　藤河内渓谷

市指定「豊後二見ヶ浦」（上浦地区津井浦）は、高さ 17 mの男岩と高さ 10 mの女岩からなる夫婦岩を望む海岸である。二つの岩はしめ縄で結ばれ、毎年 12 月の地区住民によるしめ縄の張替え作業は、年末の風物詩として良く知られている。また初日の出を拝むために訪れる観光客も多い。

市指定「暁嵐の瀧」（上浦地区浅海井浦）は、海岸からわずか 500 m足らずの位置にある、全国でも珍しい滝である。高さは 20 mほどながら、海に迫る崖から豊富な水量で流れ落ちるさまは見事である。江戸時代の文人が多く訪れ、その景観を称賛している。

【動物・植物・地質鉱物（天然記念物）】

天然記念物は国指定特別天然記念物 1 件・天然記念物 3 件、県指定 18 件、市指定 26 件、合計 48 件である。

特別天然記念物「カモシカ」（宇目地区）は、ウシ科のほ乳類で、日本と台湾にだけ分布している。体長 120cm、体重 30kg になり、雌雄とも頭に 10cm 程度の角がある。この角はシカ類と違って生え替わることはない。尾は短く 10cm くらいで、四肢にはひづめが 2 個ずつあり、左右に広がっている。比較的高い山岳地帯にある樹林近くの岩場傾斜地が主な生息場所で、祖母山・傾山を中心に、大分・宮崎・熊本 3 県の県境周辺に分布している。

図 2-15　カモシカ

国指定「小半鍾乳洞」（本匠地区小半）は、大正 11 年（1922）に県内で初めて指定された天然記念物である。洞内には斜めに傾いた石柱「斜柱石」をはじめ、鍾乳石が形作る多彩な景観が広がる。国指定「狩生鍾乳洞」（佐伯地区狩生）も同じ石灰岩層に形成された鍾乳洞で、ここに生息する洞穴動物は、県指定「狩生鍾乳洞内の動物」に指定されている。大分県の特徴である、火山活動の影響による様々な地形・地質を表す歴史文化資源の一つである。

県指定「蒲江カズラ」（蒲江地区葛原浦）は、マメ科のトビカズラ属に入り、葛原浦の特産種である。昭和 23 年（1948）に発見され、地元では馬の飼料とするところからウマカズラとも呼ばれている。かつてアイラトビカズラと同一種とみなされたが、修正されてカマエカズラと命名された。

県指定「佐伯城山のオオイタサンショウウオ」（佐伯地区城山）は、城山の雄池・雌池が大分県に固有のオオイタサンショウウオの標準産地として指定されたものである。

市指定「ホウライクジャク」（本匠地区小半）は、中国が原産地といわれており、

日本では本市の本匠地区だけに自生する、珍しいシダの一種である。生育地が人里に近く、生育環境も道路工事などの影響により悪化している。個体数も少なく、絶滅の危機に瀕しており、『レッドデータブックおおいた 2022』に登録されている。

指定等以外の動物・植物・地質鉱物では、本匠地区の石灰岩層から発見された化石のほか、本市の調査により市内各地の特徴的な植物・地質鉱物が計 85 件把握されている。また「龍神池」（米水津地区間越（はざこ））では、高知大学のボーリング調査によって、約 3,300 年前からの堆積物に、８回の大津波に襲われた痕跡が残っていることが判明している。

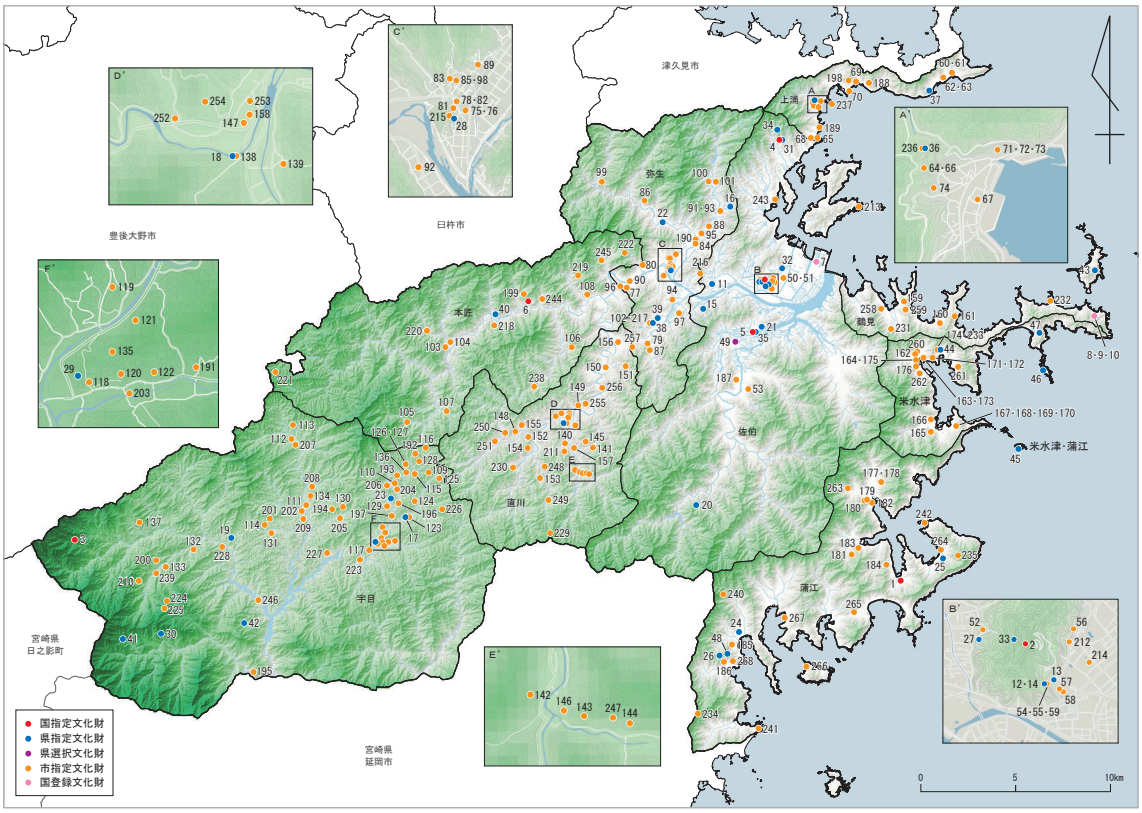

図 2-16　指定等文化財位置図
（図中の番号は指定等文化財一覧表の通し番号と対応している）

第４節　歴史文化資源の把握調査

４－１　これまでに実施した把握調査

本市域に所在する歴史文化資源の把握調査としては、大分県が実施した調査のほか、平成 17 年（2005）の合併以前の市町村が実施した戦争遺跡の調査、市誌等作成のための調査がある。合併後は、佐伯市による自然環境を対象とした調査が行われた。これらの調査成果を含む、本市の歴史文化資源の把握調査に関する刊行物は以下のとおりである。

表 2-3　歴史文化資源の把握調査に関する刊行物一覧

書籍名	編著者	刊行年
歴史の道調査報告書　日向道	大分県教育委員会	1980
大分県の近世社寺建築	大分県教育委員会	1987
大分県の民俗芸能	大分県教育委員会	1989
大分県の近代化遺産	大分県教育委員会	1994
大分県のシシ垣	大分県教育委員会	2001
大分の中世城館　第一集　文献史料編	大分県教育委員会	2002
大分の中世城館　第二集　文献史料編	大分県教育委員会	2003
大分の中世城館　第三集　地名表・分布図編	大分県教育委員会	2003
大分の中世城館　第四集　総論編	大分県教育委員会	2004
大分の中世城館　別冊・総合索引	大分県教育委員会	2004
大分県の近代和風建築	大分県教育委員会	2013
大分県遺跡地図	大分県教育委員会	2018
西南戦争跡分布調査報告書	大分県教育庁埋蔵文化財センター	2009
大分の中世石造遺物　第一集　分布図・地名表編（上）	大分県教育庁埋蔵文化財センター	2013
大分の中世石造遺物　第二集　分布図・地名表編（中）	大分県教育庁埋蔵文化財センター	2014
大分の中世石造遺物　第三集　分布図・地名表編（下）	大分県教育庁埋蔵文化財センター	2015
大分の中世石造遺物　第四集　写真図版編	大分県教育庁埋蔵文化財センター	2016
大分の中世石造遺物　第五集　総括編	大分県教育庁埋蔵文化財センター	2017
佐伯市史	佐伯市史編さん委員会	1974
上浦町誌	上浦町誌編さん委員会	1996
弥生町誌	弥生町誌編さん委員会	1996
本匠村史	本匠村史編さん委員会	1983
宇目町誌	宇目町誌編纂委員会	1991
直川村誌	直川村誌編さん委員会	1997
鶴見町誌	鶴見町誌編さん委員会	2000
米水津村誌	米水津村誌編さん委員会	1990
蒲江町史	蒲江町史編さん委員会	2005
佐伯藩政史料目録	佐伯市教育委員会	1979
佐伯藩政資料漢籍目録	佐伯市教育委員会	2004
中島家寄贈目録	佐伯市教育委員会	1990
鶴谷佐藤蔵太郎旧蔵資料目録（稿本）	佐伯市教育委員会	1991
毛利高範侯旧蔵洋書（独文）目録	佐伯市教育委員会	1991

書籍名	編著者	刊行年
明石家寄贈　明石秋室関係資料目録	佐伯市教育委員会	1993
山田平之丞氏旧蔵資料目録	佐伯市教育委員会	1997
大内須磨子コレクション貝類標本目録	佐伯市教育委員会	1999
毛利家資料調査報告書　工芸品・絵画・古文書	佐伯市教育委員会	2003
佐伯市戦争遺跡　濃霞山―長島山―興人	佐伯市教育委員会	2006
佐伯の豊かな自然　～佐伯市自然環境調査報告書～	佐伯市	2018
佐伯文庫の残存本	梅木幸吉	1983
大分県古民家調査概報	大分工業大学工学部建築学科 建築史研究室	1974
日本の民家調査報告書集成　第 15 巻 九州地方の民家 1 （福岡・大分・佐賀・長崎）	東洋書林	1999

このほか、平成 23 年度（2011）・24 年度（2012）に各地区の公共施設等に収蔵されている歴史文化資源の把握調査を実施した。ただし、この時の調査では一部施設が対象外となっている。この調査により把握した歴史文化資源は、市内８施設で計 2,948 件にのぼる。

また、大分県立先哲（せんてつ）史料館が実施する県内の記録史料所在調査により、本市内に 56 件の民間所蔵の古文書・歴史資料等が確認されている。

なお、古文書や考古資料・民俗文化財等のうち、佐伯市歴史資料館や佐伯市平和祈念館やわらぎ、城下町佐伯国木田独歩館に収蔵している資料については、各館で台帳を作成してリスト化を進めているが、寄贈等による各館の資料の増加もあり、整理が追い付いていないのが現状であるため、上記件数には含めていない。さらに、佐伯史談会をはじめとする郷土史研究団体の調査により把握された歴史文化資源も相当数に上るが、リスト化には至っておらず、今後の課題である。

４－２　地域計画作成のための把握調査

（１）これまでに実施した把握調査の補完調査

前記のとおり、一部の公共施設については収蔵資料の台帳が作成されていなかったため、令和３年度（2021）の地域計画作成事業において調査を実施した。調査の対象は、上浦地区公民館、蒲江地区公民館、直川農業歴史資料館の収蔵資料に加え、佐伯市蒲江海の資料館に収蔵されている資料のうち、国指定重要有形民俗文化財「蒲江の漁撈用具」の対象外資料である。

調査の結果、上浦地区公民館に 49 件、直川農業歴史資料館に 523 件、佐伯市蒲江海の資料館に 211 件の資料を確認した。これにより、本市内の公共施設が収蔵する資料は、佐伯市歴史資料館・佐伯市平和祈念館やわらぎ・城下町佐伯国木田独歩館・木浦名水館を除いてリストの作成を終えたことになる。

（２）アンケート調査

地域計画の作成にあたり、令和３年度に市民を対象にアンケート調査を行った。ここでは、その調査結果の概要について述べる。

なお、アンケート調査では地域計画における「歴史文化資源」を「歴史・文化・自然」と表記している。

名　称	歴史・文化・自然に関するアンケート調査
目　的	① 文化財に対する市民の意識調査による課題の把握 ② 総合的な文化財リストの作成に向けた未指定を含む文化財の現状確認
期　間	令和３年 12 月１日～ 22 日
対　象	佐伯市民 3,622 人 ・小中学生：小学６年生 554 人、中学３年生 486 人（小中学生用アンケート） ・高校生：高校３年生 582 人（高校生用アンケート） ・一般：19 歳以上の市内在住者 2,000 人（一般用アンケート）
回答数	1,909 人（回答率 52.7%）

目的①に設定した意識調査では、歴史文化資源に対するイメージとして「宝物、自慢できるもの」「地域の魅力」「未来へ伝えるべきもの」であり、市民のアイデンティティの一つとして、とても大事なものであると認識している市民が多数であった（図 2-17）。

しかし一方で、「難しくてよく分からない」「自分の生活には関係がない」ために、歴史文化資源に対する関心が低く、マイナスイメージを持つ市民の存在も浮かび上がった（図 2-18）。また、担い手・後継者や維持管理費用の不足を挙げる回答も多かった。

目的②では、本章で述べる本市の歴史文化資源の概要と特徴の基礎情報を得ることとした。具体的な設問として、他者に紹介したい本市の歴史・文化・自然について尋ねた。回答結果についてキーワードでまとめると、表 2-4 のとおりである。

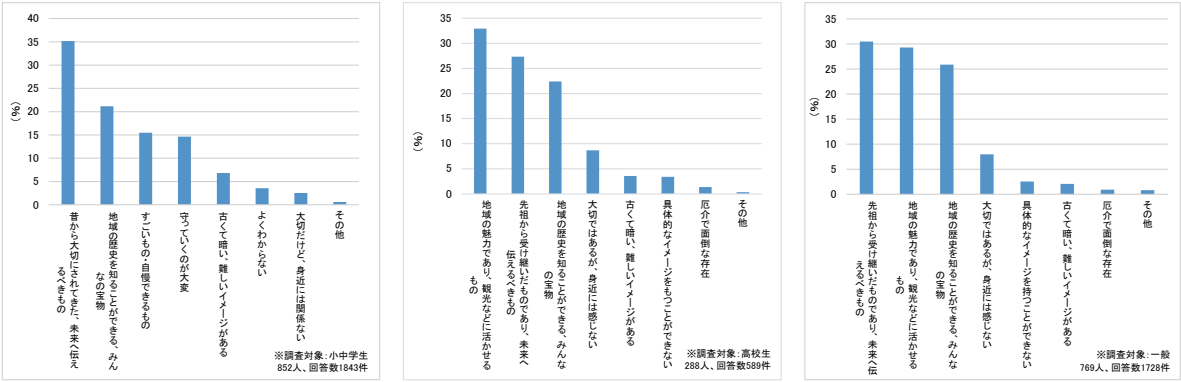

図 2-17　歴史・文化・自然に対するイメージ

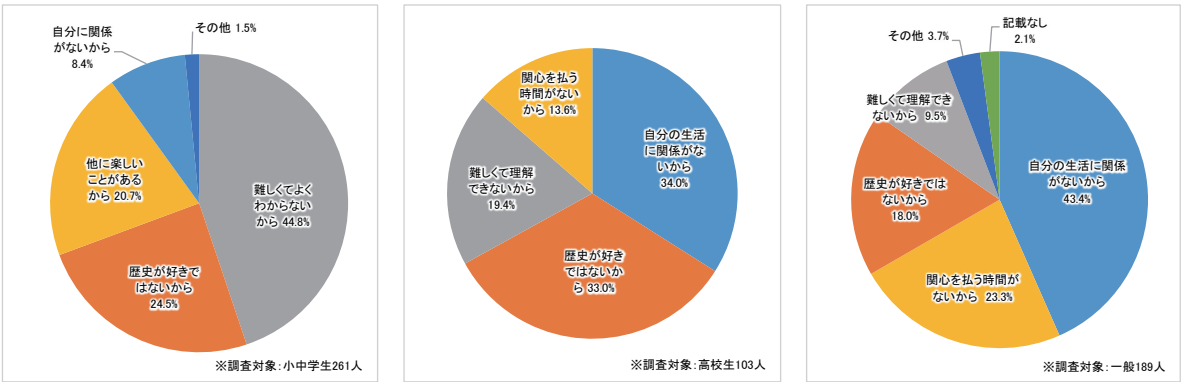

図 2-18　歴史・文化・自然に興味がない理由

表 2-4　他者に紹介したい本市の歴史・文化・自然

分類	キーワード	小中学生	高校生	一般
城・城下町	城山	190	51	76
	佐伯城	20	0	15
	栂牟礼城	2	8	10
	城下町	8	3	4
食べ物	ごまだし	19	9	8
	くじゃく	1	0	1
	食	5	5	19
	ヒオウギガイ	8	0	0
自然	滝	9	3	5
	海	37	10	59
	海岸	6	0	29
	渓谷	30	7	18
	自然	11	5	31
	森	5	0	0
	川	40	6	22
	島	11	3	10
	林	2	0	2
	尺間山	8	1	5
公共施設	歴史資料館	5	0	1
戦争	戦争	9	2	11
	砲台	9	0	7
	防空壕	6	1	1
	平和祈念館やわらぎ	16	2	4
神社仏閣	神社	26	2	13
	寺	9	0	7
人工物	水車	9	1	2
	灯台	7	3	5
	公園	12	6	21
歴史 伝統文化	歴史と文学のみち	21	9	11
	国木田独歩	10	7	3
	唄げんか	4	0	1
	祭り	13	6	10
	五丁の市	4	1	2
	神楽	11	8	8
	毛利家	0	0	5

※本表の分類欄はアンケート分析のために設けたもので、文化財の類型とは一致しない。

世代を問わず「城山」「佐伯城」が突出しており、これらが本市を象徴する歴史文化資源であることがわかる。また、海・渓谷・山といった自然も多く挙げられ、市民が豊かな自然環境を身近に感じていることがうかがえる。

また、現時点で広く知られてはいないが、大切にしたい歴史・文化・自然にまつわ

る場所やモノについて尋ねた。回答には、指定文化財に加えて、把握されている未指定の歴史文化資源や、未把握と思われる歴史文化資源も挙がっている。佐伯藩に関わる遺跡などのほか、祭りや伝統芸能・行事、自然も多く見られ、民俗や自然にも市民の関心が強いことがうかがえる。保存・活用の対象として検討したい。

このほか、地域計画を作成する過程で、本市の歴史文化を語るために重要な歴史文化資源として把握したものがある。

ここまでの調査で把握した歴史文化資源のうち、その情報の公開が可能なものは資料編に掲載している。

4－3　個別の歴史文化資源の調査

これまでに紹介した調査や、各種の開発に伴う調査によって把握された歴史文化資源について、市・県・民間団体等が個別に調査を実施し、その成果を報告書等に刊行して公開している。それぞれの報告書等は以下のとおりである。

表 2-5　個別の歴史文化資源の調査報告書等一覧

書籍名	編著者	刊行年
大分県の文化財	大分県教育委員会	1991
堂ノ間遺跡	大分県教育委員会	1998
森の木遺跡	大分県教育委員会	2000
津久見門前遺跡　瀬戸遺跡　佐伯門前遺跡	大分県教育庁埋蔵文化財センター	2005
小河内遺跡・菅ヶ谷遺跡	大分県教育庁埋蔵文化財センター	2013
森の木遺跡発掘調査報告書	大分県教育庁埋蔵文化財センター	2016
蒲江漁史　蒲江町の伝統的漁具漁法	大分県南郡地方振興局水産課	1996
佐伯市の文化財	佐伯市教育委員会	1990
上浦町の文化財	上浦町教育委員会	1990
弥生町の文化財	弥生町教育委員会	1989
ふるさとの文化財うめまち	宇目町教育委員会	1980
直川の文化財	直川村教育委員会	1982
鶴見町の文化財	鶴見町教育委員会	1984
ふるさとの遺産　つるみの文化財	鶴見町教育委員会	2005
佐伯藩史料　温故知新録　一	佐伯市教育委員会	1995
佐伯藩史料　温故知新録　二	佐伯市教育委員会	1997
佐伯藩史料　温故知新録　三	佐伯市教育委員会	1999
佐伯藩史料　温故知新録　四	佐伯市教育委員会	2001
佐伯藩史料　温故知新録　五	佐伯市教育委員会	2003
佐伯藩史料　温故知新録　六	佐伯市教育委員会	2005
佐伯藩史料　温故知新録　七	佐伯市教育委員会	2007
佐伯藩史料　温故知新録　八	佐伯市教育委員会	2009
佐伯藩史料　温故知新録　九	佐伯市教育委員会	2011
佐伯藩史料　温故知新録　十	佐伯市教育委員会	2013
佐伯藩史料　温故知新録　十一	佐伯市教育委員会	2015
佐伯藩史料　温故知新録　十二	佐伯市教育委員会	2017

書籍名	編著者	刊行年
佐伯藩史料　温故知新録　十三	佐伯市教育委員会	2019
白潟遺跡	佐伯市教育委員会	1958
佐伯のむかし話	佐伯市教育委員会	1988
宝剣山古墳	佐伯市教育委員会	1980
栂牟礼城址と関連遺跡発掘調査概報	佐伯市教育委員会	1998
栂牟礼城址と関連遺跡発掘調査概報Ⅱ	佐伯市教育委員会	1990
汐月遺跡	佐伯市教育委員会	1990
栂牟礼城址と関連遺跡発掘調査概報Ⅲ	佐伯市教育委員会	1991
栂牟礼城址と関連遺跡発掘調査概報Ⅳ	佐伯市教育委員会	1993
栂牟礼城跡関連遺跡発掘調査報告書	佐伯市教育委員会	1994
樫野古墳	佐伯市教育委員会	1998
天祐館遺跡	佐伯市教育委員会	1998
佐伯城下町遺跡　西田病院駐車場地点	佐伯市教育委員会	2000
萩山遺跡群	佐伯市教育委員会	2001
佐伯城下町遺跡　山中家屋敷跡・竹中家屋敷跡	佐伯市教育委員会	2003
佐伯市指定有形文化財　旧坂本家住宅保存修理工事報告書	佐伯市教育委員会	2004
栂牟礼遺跡	佐伯市教育委員会	2010
佐伯城下町遺跡　船頭町札場向島線	佐伯市教育委員会	2010
佐伯城下町遺跡　山中家屋敷跡	佐伯市教育委員会	2013
栂牟礼城跡関連遺跡群発掘調査報告書２	佐伯市教育委員会	2014
佐伯城跡測量調査報告書　佐伯市内遺跡試掘確認調査報告書	佐伯市教育委員会	2014
佐伯城下町遺跡　警露館跡	佐伯市教育委員会	2015
佐伯市指定有形文化財「毛利家御居間」「三府御門」 保存修理工事及び「土蔵」「広間」解体工事報告書	佐伯市教育委員会	2015
佐伯城下町遺跡　戸倉家屋敷跡・保田家屋敷跡	佐伯市教育委員会	2016
重要有形民俗文化財「蒲江の漁撈用具」保存修理報告書	佐伯市教育委員会	2017
女島山古墳群	佐伯市教育委員会	2021
佐伯市内遺跡試掘確認調査報告書	佐伯市教育委員会	2022
佐伯城跡総合調査報告書　総論編・資料編	佐伯市教育委員会	2022
佐伯城下町遺跡　松下家屋敷跡・浅沢家屋敷跡	佐伯市教育委員会	2023
佐伯氏一族の興亡　中世の秋に拾う	佐伯市教育委員会	1989
さいきのむかし話	佐伯市教育委員会	2009
弥生町の石造物	弥生町教育委員会	1999
上小倉横穴墓	弥生町教育委員会	1991
上小倉横穴墓	弥生町教育委員会	1993
小田山城跡と関連遺跡　第１次調査報告書	弥生町教育委員会	1994
小田山城跡と関連遺跡　第２次調査報告書	弥生町教育委員会	1995
小田山城跡と関連遺跡　第３次調査報告書	弥生町教育委員会	1996
郷土の口説	本匠村教育委員会	1991
堂ノ間遺跡	本匠村教育委員会	1997
本匠の古文書　河野家文書（中野村組大庄屋）	本匠村教育委員会	2004
本匠の古文書　因尾村文書（高野大庄屋）上	本匠村教育委員会	2004
本匠の古文書　因尾村文書（高野大庄屋）下	本匠村教育委員会	2004

書籍名	編著者	刊行年
緑と清流の里　本匠村の自然	本匠村教育委員会	1994
口説集	宇目町教育委員会	1980
宇目の昔ばなし	宇目町教育委員会	1981
うめまちの先覚者	宇目町	2004
源六原遺跡	直川村教育委員会	1993
鶴見町の自然　環境・植物・動物	鶴見町産業振興課	2000
黒潮とウバメガシの岬　鶴見町の植物	鶴見町教育委員会	2001
蒲江八景	蒲江町教育委員会	1989
蒲江町人物誌	蒲江町教育委員会	1996
かまえことのは解体新書　蒲江町の方言集	蒲江町教育委員会	2000
蒲江町盆踊口説集	蒲江町教育委員会	2003
重要有形民俗文化財　蒲江の漁撈用具	蒲江町教育委員会	2005
蒲江町の神楽	蒲江町	2000
蒲江町植物図鑑	蒲江町	2003
聖嶽洞窟遺跡検証報告	日本考古学協会	2003
佐伯志	佐藤　蔵太郎	1914
佐伯郷土史　前編	増村　隆也	1950
佐伯郷土史　後編	増村　隆也	1950
音頭集	佐伯市木立扇踊保存会	1978
元田の歴史	元田の歴史編さん委員会	1979
郷土佐伯の碑文	益田　学	1980
佐伯堅田音頭　口伝による伝承の神秘	染矢　寛	1980
ふるさとの思い出写真集　明治・大正・昭和　佐伯	軸丸　勇	1983
佐伯地方の先覚者たち	古藤田　太	1985
絵巻　栂牟礼実録	佐藤　巧	1989
私のふるさと史考	林　寅喜	1989
西南戦争と豊後路　続・佐伯地方の先覚者たち	古藤田　太	1993
古市の生活史	古市の生活史編さん委員会	1993
改訂版　「お為半蔵」口説と解説	安藤　正人	1995
ふるさとを語る　第一集　杖	佐伯史談会	1998
郷土佐伯の碑文　全現代語訳付	木許　博	1999
大越川流域の民俗と信仰	五十川　千代見	2000
比翼の謡　（お為半蔵　長音頭記）	岩藤　みのる	2003
写真帳　佐伯の今昔	四教堂塾	2005
図説　新佐伯志	佐伯史談会	2008
日豊風雲録	日豊中世歴史研究会	2010
本匠の昔ばなし	本匠村老人クラブ連合会	1981
本匠再見　その歴史と文化財	佐伯市本匠地区公民館	2013
宇目の唄げんか　附・奇祭墨つけ祭	奥宇目民俗保存会	1954
椎茸彼是	桑野　功	1989
宇目町古跡伝説	宇目町老人クラブ連合会	
木浦鉱山むかし物語	米田　寿美	2003
宇目神楽記念誌	宇目神楽保存会	2018

書籍名	編著者	刊行年
村の魚見台　恵比寿さん　魚鱗塔	米水津の歴史を知る会	2001
村の古文書　其の一	米水津の歴史を知る会	2002
村の古文書　其の二・其の三	米水津の歴史を知る会	2003
村の古文書　其の四・其の五	米水津の歴史を知る会	2004
村の古文書　其の六	米水津の歴史を知る会	2005
米水津の湾岸巡り	米水津の歴史を知る会	2018
米水津の宝永四年・安政元年　地震・大津波の記録	米水津の歴史を知る会	2020
後世に残したい米水津の文化財	米水津の歴史を知る会	2021

※民間団体等が発行したものは、本市が所蔵しているものを掲載している。

4－4　歴史文化資源の把握の課題

このような把握調査の実施状況について、その類型と地区を整理すると以下のとおりとなる。

表 2-6　歴史文化資源の把握調査の現状

類型			地　区								
大分類	小分類		佐伯	上浦	弥生	本匠	宇目	直川	鶴見	米水津	蒲江
有形文化財	建造物		○	△	△	△	△	△	△	△	△
	美術工芸品	絵画	△	×	×	×	×	×	×	×	△
		彫刻	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		工芸品	△	○	○	○	○	○	○	○	○
		古文書	△	○	○	○	○	○	○	○	○
		書跡	△	○	○	○	○	○	○	○	○
		典籍	△	○	○	○	○	○	○	○	○
		考古資料	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		歴史資料	△	○	○	○	○	○	○	○	○
無形文化財			×	×	×	×	×	×	×	×	×
民俗文化財	有形の民俗文化財		×	○	○	○	○	○	○	○	○
	無形の民俗文化財		×	○	○	×	○	○	○	○	○
記念物	遺跡（史跡）		○	△	△	△	△	△	△	△	△
	名勝地（名勝）		×	×	×	×	×	×	×	×	×
	動物・植物・地質鉱物（天然記念物）		△	△	△	△	△	△	△	△	△
文化的景観			×	×	×	×	×	×	×	×	×
伝統的建造物群			—	—	—	—	—	—	—	—	—

○：概ね調査済み　△：さらに調査が必要　×：未調査　－：該当なし

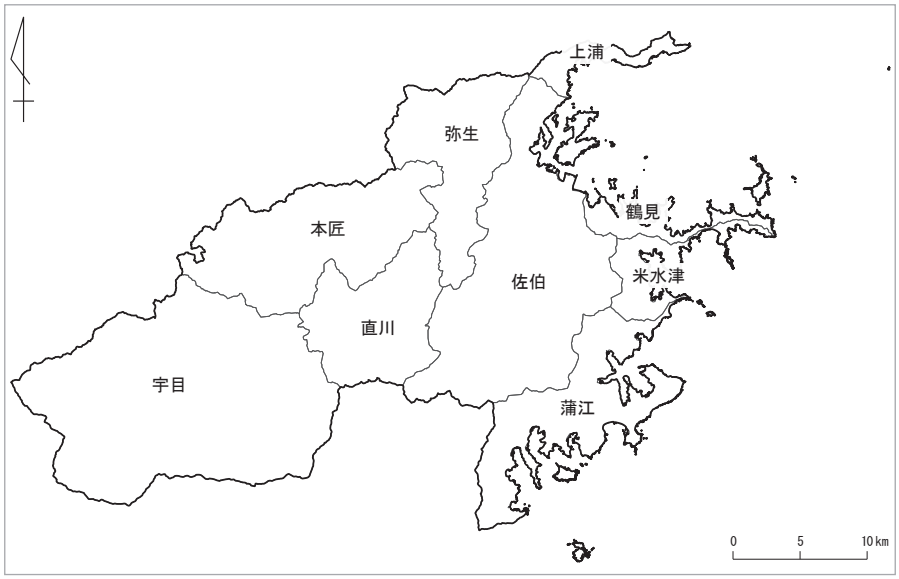

図 2-19　把握調査の地区区分

建造物については、大分県による近世寺社建築・近代化遺産・近代和風建築及び中世石造物の調査により把握されている。しかし、本市において重要な戦争関連の建造物については、一部エリアを対象に合併前の旧佐伯市が実施したのみで、その他のエリアでの把握ができていない。

美術工芸品のうち古文書・典籍・歴史資料については、大分県立先哲史料館の調査により、市内の個人が所蔵するものを把握している。また、各地区の公民館等（なお、公民館は令和４年度（2022）からコミュニティセンターへの移行が段階的に進んでいる）の公共施設に所蔵されているものは、前記の平成 23・24 年度及び令和３年度に実施した把握調査成果がある。しかし、佐伯地区でこれら資料を収蔵している佐伯市歴史資料館や佐伯市平和祈念館やわらぎ、城下町佐伯国木田独歩館の収蔵資料については、整理途上である。地域計画の作成にあたっても、「毛利家資料」や「佐伯文庫」のような資料群を一括して掲載するにとどまっているため、佐伯地区においては把握が十分とは言えない。

無形文化財については、本市では山海の産物を活用した「ごまだし」「くじゃく」といった伝統的な郷土食が知られ、観光や産業に利用されているが、把握調査は行われていない。

民俗文化財のうち、有形の民俗文化財は、市町村合併前の町村史誌を作成する際に収集した資料が、公民館等に所蔵されている。ただし佐伯地区では収集・保管されている資料がなく、未調査の状況である。無形の民俗文化財については、旧町村史誌で主要なものが把握されている地区もあるが、史誌等に特段の記載がなく、把握できていない地区もある。

記念物では、遺跡について、大分県による埋蔵文化財包蔵地や中世城館の調査成果があるが、建造物と同様に佐伯地区以外では戦争関連の遺跡の把握が不十分である。また名勝地については把握調査が行われていない。植物については、本市の自然環境調査で、各地域や地形に応じた植生や、特徴的な地質鉱物が把握されているが、動物についてはその対象がほ乳類・鳥類・両生類・は虫類・昆虫類・貝類・海藻類・魚類・大型甲殻類と極めて多岐にわたっており、情報の整理が必要である。

このほか、郷土史研究団体である佐伯史談会が発行する『佐伯史談』各号に掲載された情報をはじめ、市内で活動する郷土史研究者による調査成果の総体把握も、今後の課題である。